

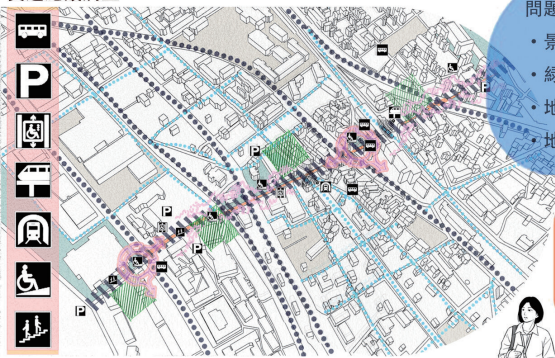
# 緑の道



植物ゾーニング

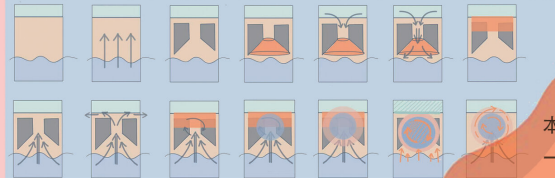


交通施設調査



コンセプト

風水の考え方に基づき、水のエネルギーを緑の道に取り入れ、地域のエネルギーを高めて、緑と芸術性を兼ね備えた空間を創出し、風と水の物語を語る場を形成する。海の気を導入する『自然の気』という装置で、「緑の道」を守る。



海辺の兵庫県立美術館の  
周辺で遊びましょうか

あーでも……

問題点

- ・景観の単調さ
- ・緑量不足
- ・地区間の連続性の不足
- ・地域文化の表出不足
- ・訴求力が弱い
- ・休憩スペースの不足
- ・空間デザインのストーリー性の不足

神戸は、海と山に抱かれながら、異国文化も取り入れながら、独自の形へと発展してきたねー

確かに。でも、日本らしい雰囲気も欲しいねー

解決策：

本街区計画は、駅・兵庫県立美術館を結ぶミュージアムロードに山・海・緑・水・雨などの自然界の要素を入れて、「緑の道」を展開する。

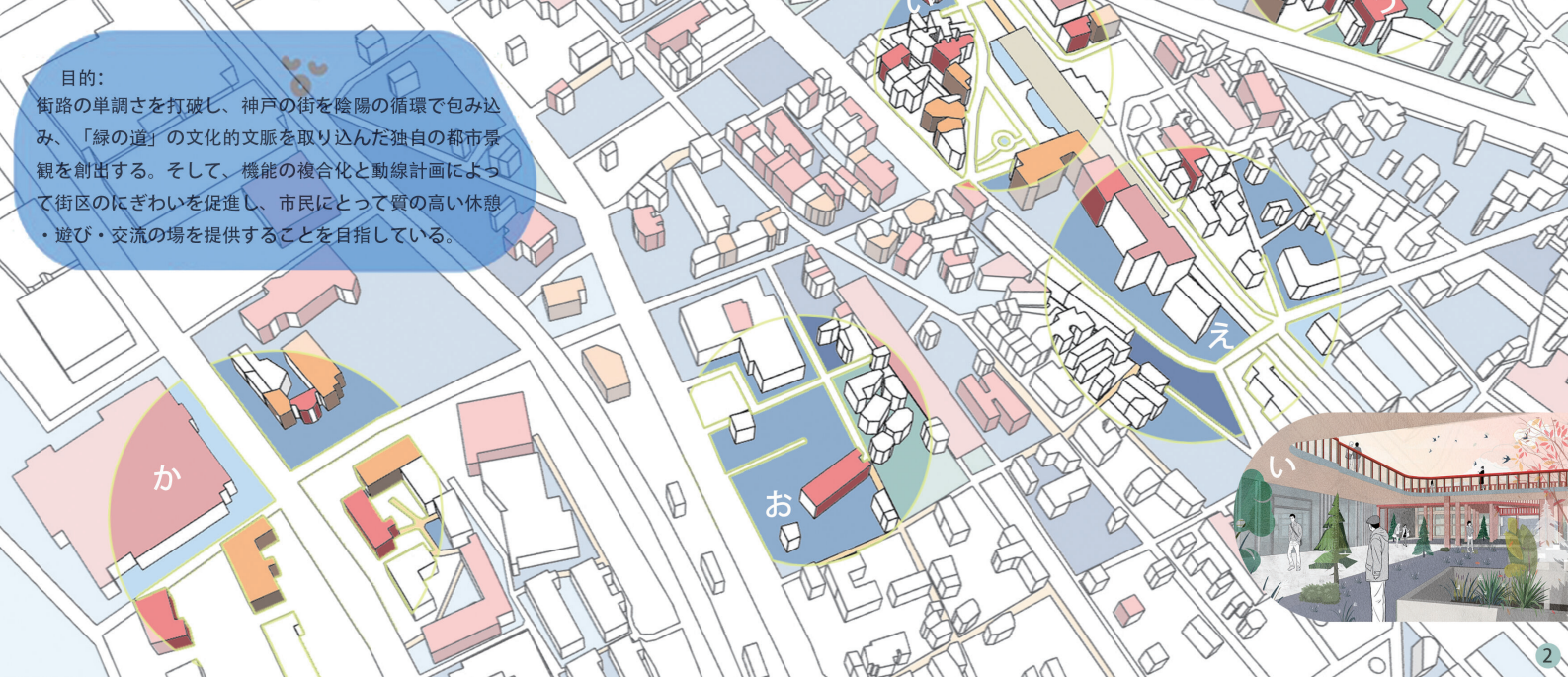
水は生命の源を捉え、「水」空間全体の構成要素として計画しました。

神戸は「山から水が生まれ、海へ還る」構造をもつ神話的地形です。風水的にも「背山臨海」の理想形の地でもあります。



緑は単なる景観ではなく、神戸という都市の記憶や多様な文化を包み込み、時間の積み重ねによって形成されてきた生活風景そのものだとと言える。

緑の街道は、山と海、都市と人の暮らしをつなぐ手段役割を持ち、そして風や光・人の流れを受け止めながら、都市の中に連続した自然の軸を生み出している。



目的：  
街路の単調さを打破し、神戸の街を陰陽の循環で包み込み、「緑の道」の文化的文脈を取り込んだ独自の都市景観を創出する。そして、機能の複合化と動線計画によって街区のにぎわいを促進し、市民にとって質の高い休憩・遊び・交流の場を提供することを自指している。